

平成27年度  
草津市教育委員会事務  
外部評価委員会 会議録

第3回会議  
(平成27年10月30日開催)

草津市教育委員会

外部評価委員	委員長	糸乗 前
	委員	駒井 照子
	委員	下村 修一
教育委員	委員	村山 美智子
	委員	麻植 美弥子
	委員	谷川 尚己
	委員	杉江 由紀子
	教育長	川那邊 正
議事参与	教育部長	明石 芳夫
	教育部理事	宮地 均
	教育部副部長（総括）	居川 哲雄
	教育部副部長（街道交流担当）	八杉 淳
	教育総務課長	太田 一郎
	開校準備室長	永池 孝志
	生涯学習課長	奥谷 美津子
	スポーツ保健課長	岸本 久
	文化財保護課長	谷口 智樹
	図書館長	北相模 政和
	学校教育課長	藤野 利也
事務局	教育総務課副参事	高井 育夫
	教育総務課主事	松浦 正樹 齋藤 美咲

開会 午前11時00分

教育総務課長

委員の皆様、こんにちは。本日はお忙しい中、お集まりいただきまして、まことにありがとうございます。

ただいまより「平成27年度 第3回草津市教育委員会事務外部評価委員会」を開会いたします。

本日は、まず前回までの議事録について御承認いただきました後に、教育委員に入っただいて懇談を進めていきたいと思っております。

終了の予定時刻は12時を予定しております。どうぞよろしく願いいたします。

それでは、これ以降の進行につきましては糸乗委員長、よろしくお願いいたします。

糸乗委員長

皆さん、改めましてこんにちは。どうぞよろしく願いいたします。

では最初に、第1回と第2回の外部評価委員会の会議録の確認をさせていただきたいと思っております。事務局から事前に配付いただいておりますけれども、その内容についての御意見等ございましたら、どうぞよろしく願いいたします。

事前の御連絡では御指摘が何点かあるということで、それを確認するという形で進めさせていただければよろしいですか。

駒井委員

こちらの方、言っているんですか。

糸乗委員長

事務点検評価、報告書ですか。はい。

駒井委員

15ページの緊急メール配信システムについての意見のところですが、「市内各校100%の登録率となるよう努力いただきたい」と言い切っている表現になっているのですが、私が申しあげた意見とちょっとニュアンスが違ったので、表現を少しかえていただけたらと思うのですが、「努力いただくとともに、情報が全ての人に行き渡る配慮はしていただきたい」というふうにかえていただけたら、私が申しあげたニュアンスが伝わるかなと思いました。

それから、2点目は40ページの(23) - 1のすこやかサポート支援員さんたちのところなのですが、3行目に「特別支援教育の安定がはかられ」とあるんですけども、これを「進展」というふうに言ってもらった方がいいかなというふうに思いました。

3点目は、42ページの(25) - 3の芝生化のところですが、「推進は難

しいのかな」と表現してあるんですが、これは「のかな」はとっていただいていいかなと思います。

糸乗委員長

最後の点は「推進は難しいと思う」という表現で。

駒井委員

はい、それをお願いします。

それから、もう一つ追加ですが、46ページの(27)－2のところです。最後の文のところで「学校がボランティア参加のきっかけづくりになるというのはとても良いことだと思うので今後も応援していきたい」と書かれているのですが、文面を見ると少し違ったので、ここは「応援して」というところを「積極的に広げていただきたい」というふうにかえていただいたらどうかなと思いました。

糸乗委員長

合計で4点ございます。この点に関してどういう形で。これは変更をお願いするという形でよろしいでしょうか。

教育総務課長

はい。

糸乗委員長

今のところ、4点につきまして変更をお願いしたいと思います。よろしく願いいたします。

では、それ以外はいかがでしょう。

下村委員

はい、結構です。ありません。

糸乗委員長

私からもないので、以上で第1回、第2回の外部評価委員会、この報告書を含めてということですが、承認いたしましたので、一旦、事務局に進行をお返しいたします。よろしく申し上げます。

教育総務課長

ありがとうございました。

それでは、続きまして外部評価委員の皆様と教育委員の懇談に移らせていただきます。

これから教育委員を呼んでまいりますので、今しばらくお待ちいただきますようにお願いいたします。

(教育委員入室)

ありがとうございます。それでは、これより外部評価委員の皆様と教育委員の懇談を始めさせていただきます。

まず、懇談を始めるに当たりまして、川那邊教育長よりごあいさつをお願いいたします。

川那邊教育長

こんにちは。本日は、外部評価委員の皆様と教育委員の懇談ということで、大変お忙しい中ですが、御参加いただきありがとうございます。また、これまで2回にわたる熱心な御議論をいただき、点検評価報告書についてまとめていただきました。ありがとうございました。この評価については、成果と直結しないのでややわかりにくいというような御指摘もいただいておりますが、また次の年に向けて修正をしていきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

ほかにもたくさん会議録も含めていろんな御意見をいただきました。今、予算の時期ですが、次年度予算に向けまして、取り入れられるものについては検討もしながら、そしてまた中期的にも取り入れる形で進めたいと思っております。どうぞよろしくお力添えをお願いしたいと思います。

昨日まで議会が3日間、一般質問がございまして、校庭の芝生化の問題であるとか中学校の給食でありますとか、あるいは中学校の給食については今、検討も進めているところですが、そのほかいろんな課題が、教育に対する課題というもの、あるいは期待というものを感じさせていただくような質問がたくさん出ておりました。

そういったことにもまた着実に取り組みながら、市民の皆さんの御期待に応えるようにがんばりたいと思っておりますので、その点もまた併せてお力添えいただきますようお願いをしたいと思います。

簡単ですが、あいさつとさせていただきます。ありがとうございました。

教育総務課長

ありがとうございます。

それでは、会議の進行を糸乗委員長、よろしくお願いいたします。

糸乗委員長

はい。どうもこんにちは。外部評価委員会の委員長をさせていただいております、滋賀大学の糸乗と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

ちょっと座らせていただきます。

早速ですが、会議の進行をさせていただきます。本日は懇談会のテーマとしまして、「教育委員会事務の点検・評価（平成26年度）について」ということで、それから副題という形ではありますが、「これからの教育委員会に期待

すること」となっております。

私たち外部評価委員会は、今年度の外部評価を進める中で感じたこと、草津市の教育委員会に期待することを懇談会の中で述べさせていただきたいと思っております。それで、草津の教育行政に少しでもお役に立てればというふうに考えておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

では最初に、私たち外部評価委員会から自己紹介も兼ねてということで自己紹介をしつつ、その後、外部評価を行った感想という形で述べさせていただきたいと思います。

私は草津市に15年前に引っ越してきました、その間、子どもたちが幼稚園・小学校・中学校・高校の期間、今は大学生もいますけれども、その間、ずっと草津にお世話になったという形で、その中で受けてきたことですね。そういう恩恵を受けてきたことに関して、そういう視点で見せていただいたり、地域では組長とか1年間させていただいたという経験もありますので、そういう視点からこの外部評価委員会に加わらせていただいています。私は2年目にはなるのですけれども、昨年に引き続いてさせていただいております。

感想としましては、私は2年目ですので、昨年度の評価と今年度の違いというのがあったなと感じておりまして、一番大きく感じたのは学校政策推進課の新設というのですか、私にとっては新設という形で捉えたのですけれども、平成25年度のときはなかって、平成26年度は推進課のかたが恐らく名前からすると重点ポイントというのですかね、そういう部分を積極的にされていると。結構、対外的に対応されているような印象を非常に受けましたので、そういう形で恐らくポイントを決めて継続する部分も大事な部分で、そういう部分と、さらに重点的に行うという部分を実施されてきているのだなというふうに感じました。そこが非常にすごく実施されていたというのを強く感じたというところで、高く評価いたします。

ちょっと長くなりましたが、一応、感想の部分も含めまして紹介させていただきました。それでは駒井委員、どうぞよろしく願いいたします。

駒井委員

はい。駒井照子と申します。よろしく願いいたします。

2010年3月まで市内の小中学校等に勤務させていただいておりました。現在は住んでいる学区の主任児童委員や読書ボランティアをしながら、子どもたちの見守りなどをさせていただいているということでございます。

感想ですが、私が草津市に勤務をさせていただいていた頃は、ちょうど地域協働合校の取組が始まったときでした。その取組も非常に先進的な取組であったと思いますし、学社融合というキーワードがスタートし始めた頃であったと思いますし、具体的にどんなことをしているのかということを手探りでありな

がら、非常に楽しく学校経営などの部分で取組をさせていただいたなという感じが強くしておりましたが、その後も電子黒板でありますとか学級へのパソコンの配置など、非常に他市に先駆けた施策を次々と展開していただいたなというふうに思っております。

このお役をいただいて、草津市の教育振興基本計画を初め施策の評価を詳しく御説明いただいたり、ホームページを拝見したりする中で、私が退職してから5年間ですが、非常に大胆かつきめ細やかに、そして一段と先駆的に教育行政が進められているなということを強く感じさせていただきました。そんなことを改めて、この外部評価委員会で強く強く感じさせていただいたところでございます。

以上です。

糸乗委員長

ありがとうございます。

次に下村委員、よろしくお願いいたします。

下村委員

一市民として、外部評価委員会に応募いたしました。私は昔の常盤村、琵琶湖のすぐはたで今はモロコの養殖をしているのですが、そんなことで市役所へ何回か行っておりました、教育委員会のがんばっておられる姿をよく見ておりました。

そんなところからこの間の評価委員会でいろいろ説明をしていただいた中で、やっぱりすばらしいと思ったのは三つあるのですけれども、その一つが加配教員を草津市独自でやっておられますね。社会のいろんなさまざまな変化があって、教育困難な子ができてきます。それに対して手厚い、一人ひとりにきめ細かい指導をしていただいている、それは市民としては本当にありがたいので、私は本当に教育にお金を惜しんではいけないと思います。これはもう「百年の計」にあると言われるように、先を見通してやっぱり進めていただいている、それがすばらしいと思いました。まず、その一つだけお話させていただきます。

糸乗委員長

どうもありがとうございました。

では、教育委員会の皆様がたの自己紹介を兼ねて、第1回、第2回の外部評価委員会の議事録の感想も交えながらお願いしたいと思います。

最初に村山委員、よろしくお願いいたします。

村山教育委員

村山美智子と申します。

保護者枠ということで、応募というか、委員にならせていただいたときは、うち子どもが1人いるのですけれども、息子が中学1年で草津中でお世話にな

っていました。私も草津市に来たのはその息子が幼稚園の年長のときで、ちょうど1年後に第二小に入るときは、駒井先生がちょうど第二小に来られたとき、同時にうちの子も入学したということで大変懐かしいというか、私の方が一方的に懐かしい思いをさせていただいているのですが、すごく学校も生き生きとはつらつとしていたなという思い出と多くを振り返りながら、それから小学校・中学校お世話になってきた分と、それから私がこういう教育委員をするようになってからの、あと12月末でちょうど丸4年で任期は終わるのですが、この4年間をまた振り返ってみて、やっぱりすごくこの4年間だけでもいろいろ変わったなという部分と、学校からお世話になっている部分のいい意味での変わらない部分と、やっぱりもっと変わっていかなくちゃいけない部分と、いろいろあるなというのを、いろいろ振り返って考えておりました。

この会議録を読ませていただいて、本当にいろんな面にわたってすごく細かく皆さん、ボリュームを見ても分かるように、本当にいろんな面でいろいろ御指摘いただいたり御意見いただいたり、本当にありがたいなというふうに思いながら、駒井先生の2位ではなくて1位を目指してくださいという言葉がすごく心に残って、もちろん1番じゃなくちゃいけないということとは違って、あくまでそこを目指して努力して行ってほしいという意味がたくさん込められているのだなというふうには感じましたし、これからももっともっとみんなで今の前へ向く姿勢をそのまま一丸となって進めていくことが大事だなというふうに感じました。

以上です。

糸乗委員長

どうもありがとうございます。

次、麻植委員、よろしく願いいたします。

麻植教育委員

麻植美弥子と申します。どうぞよろしく願いいたします。

私は3年目になります。それで、私自身、子どもが3人おりまして、前回もお話しさせていただいたのですけれども、3人とも不登校でした。でも、それでも本当に学校の先生がた、地域のかたがた、周りのいろんなかたがたの支えでそれぞれ大学へ進学して、それぞれ今、自立をしています。

その中で母親として感じたこと、そしてもう一つ、自分自身が和楽器を演奏しますので、日本人のアイデンティティー、日本のアイデンティティーという面からも、文化でいろんなことができるのではないかなというのもありまして、実は常盤まちづくり協議会が立ちあがった際に「ときのわ」という地域の昔の話、いいところ探しをしながら、20分ぐらいの音楽物語と、みんなが歌えるような歌を作らせてもらった経緯があるのです。「今昔物語」という形で地域を

全部、町内会を回らせていただいて、いいところ探しをした中で、今は境界図を作っておられるまちづくり協議会もあるのですけれども、音楽でそういうことも自分の中でいろんな引き出しを持っているので、それを草津の教育に少しでも役に立つことになることができたらと思ひまして、ここは公募ですので手を挙げさせていただきました。

地域協働合校もすごく着目する部分ですし、そしてたくさんのボリュームの中で本当にありがたいなと思います。そして一番感じたことは教育行政には学校教育と社会教育があるのですけれども、この点検・評価もそうですし、教育基本方針もそうですし、ずっとお話しさせてもらったのは、社会教育のボリュームがやっぱり、両輪という意味では学校教育のボリュームが多いんですね。なので、地域の教育力をあげるためにも、そちらにもやっぱりもう少し視点を持って広げていっていただけたらうれしいなというのを願っています。

以上です。ありがとうございます。

糸乗委員長

どうもありがとうございました。

それでは谷川委員、よろしく願いいたします。

谷川教育委員

谷川尚己といいます。よろしく願いします。

私も草津市内で小・中の教員を経験させてもらいまして、そのときは大きく変わったなというふうには思っていますけれども、少し変わらないのがあって、それはスポーツ少年団のことで、いろいろ人数がどうか書いてあるのですけれども、指導内容を実際に指導者が理解しているのかどうかというのが、やっぱり相変わらずかなというふうに思いますね。

というのは、生涯スポーツを続けるという意味では目先の勝利だけでなく将来、子どもがいかにスポーツを続けていくのかと、そういう観点がもう少し必要ではないかなというふうに思いますのと、「総合型地域スポーツクラブ」についても、自分の健康は自分でお金を出して守るんだと、そういう意識をしていかないと、どうもお膳立てをしないとまだ入らないと。そのあたりは今後の課題かなというふうに思っています。

意見等もお話をいただいて、その点がもう少しアップすればいいかなというふうに思います。よろしく願いします。

糸乗委員長

ありがとうございます。

それでは、次に杉江委員、よろしく願いいたします。

杉江教育委員

杉江由紀子と申します。どうぞよろしく願いいたします。

私は3年前まで草津市立の幼稚園の方に勤務させていただいておりました。初めてこのような場に出させていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

現在は将来、保育士、そして幼稚園教諭になることを目指している児童教育学科の大学生への指導と併せて、新規採用となった幼稚園の教員の指導員として関わらせていただいております。言うまでもなく、生涯にわたって生きていくという力は、幼児期から育まれていくということをこれまでの自分の保育経験を通して強く強く感じてきた一人でございます。

幼稚園教育の基本の中には「環境を通して行うもの」という文言がございます。そして、「環境」という何か物的なものをイメージしがちなのですけれども、人という環境と物を含めた教育環境の充実というのが大変重要になってくるのではないかなと思ってまいりました。そういった面で、草津市には教育環境の充実ということに本当に力を入れておられて、絶大な効果をあげておられるということも大変感動している一人でございます。

草津市の教育振興計画の施策の基本方針の第1のところに、「子どもの生きる力を育む」という言葉が明記されております。生きる力の基盤というのは、幼児期からあるというふうに言葉を膨らませながらいつも考えております。

そのような点から評価委員さんの御意見の中に少し触れさせていただくと、スポーツというふうに書いてございましたが、幼児期の体験が大きく関係するので、部局を越えた連携をお願いしたいといったコメントがちょっと目にとまりました。大変、重要な御指摘だなということを感じまして、幼稚園にいたときからこの幼児期の体力の低下というのを大変危惧したことがありまして、園の取組として重点的に取り組んできたことがございました。遊び場の減少というようなことと相まって、ますますこの課題というのは、幼児期の育ちにも関わってくると考えてまいりました。心の育ちとそして体の育ちへの取組というのを、ぜひ部局を越えて連携していただけたらなと読ませていただいて感じましたし、これは家庭の食生活、そして「食の『芽生え』と『育み』推進事業」というようなところもございましたので、そういったところにおいても大変重要なところかなというふうに思いました。

初めてこの場に出させていただくわけですが、大変きめ細やかな、先ほども出ております、ボリュームある協議というか評価のことをお話しいただいて、大変な御苦労があったのではないかなとお察しいたします。

教育の基本として、変わらないものは残し、継続し、常に点検してよりよいものを高めていこうとする草津市の教育の方向というのは強いものがあるなというようなことを感じております。

以上です。

糸乗委員長

どうもありがとうございました。ただいま皆様の自己紹介と感想をいただきました。

では、「これからの教育委員会に期待すること」ということを柱にして、意見交換をさせていただきたいと思います。

報告書とか外部評価をした中での内容ですね。よろしいでしょうか。

麻植教育委員

よろしいですか。すみません。

糸乗委員長

はい、よろしくをお願いします。

麻植教育委員

駒井先生の方からも出ていました地域協働合校というのは、本当に学校教育の方とそして社会教育の方と生涯学習にまたがったこの点検・評価の中でも何度も出てきていると思います。

それと、あと今年から市長部局の方からの企画で、総合教育会議というのが開かれて、もうこれで3回目になるのですけれども、2回目の際の議題が地域協働合校でした。その地域協働合校の中のことで、最終的に市長さんの方から言ってくださったのが、地域協働合校は教育委員会の学校教育の方が主導でやるものだ。そして、市長部局のまちづくり協議会の方でやるまちづくり協議会が今はメインになってくださっているのですけれども、一括交付金の中でしてくださる地域協働合校と、この2種類があるのですね。これを私は3年目になってやっと分かってきて、予算の出どころも違うし、主導も違うし、それならばこれをどういかに連携しながら、よりよく子どもたちを周りの者で支えながら、育てながら生き抜く力も含めてしていくか。教育長も言ってくださった「NEW地域協働合校」という感覚を、今までもどうしても地域協働合校は課題、今までのままで終わって、次のステップを望まれていたと思うのですけれども、この点検・評価の中でも杉江委員もおっしゃっていましたが、部局を越えて、課を越えて取り組んでいく大きな一つの柱が地域協働合校なのではないかなと感じています。

そこも動き出して、ちょうどまちづくり協議会が新しく生まれ、そして市民センターが今度は指定管理者による運営になっていきますこの時期なので、とても大変なときではあると思いますし、なかなかその議題に行くまで難しいかもしれないのですが、過渡期だからこそ、こういうふうなことも入れていこうというふうにしていくことはとても大事なのではないかなというふうにして感じています。

部局をまたいでは環境もできていますし、あともう一つ、文化の方で、今も

見させてもらったのですけれども、文化は市民の向上の部分だけの振興になっているのですね。「市民文化の向上と文化活動の推進を図り、心豊かな市民生活を実現するため」に。

でも、この文化というのは、先ほどもちょっとお話しさせていただきましたまちづくりだったりとか、それからふるさとの郷土愛だったりとか、いろんなところ、多岐にまたがって文化というのは一つのキーワードだと思うので、そういうふうにして広がっていくことができたならうれしいなというのを一つ感じています。

そしてもう一点、最後ですが、子どもの安心・安全という意味で、今は見守り隊、あと防犯ブザーの配付に取り組んでいますが、今、防犯カメラの威力を感じています。多分、ここの教育委員会でもお話しさせてもらったのですが、地域の中でもそういう動きもしてくださっています。学校サイドも市長部局と一緒にあってできるだろうと思います。そしてあと、情報モラルに関しても親御さんが知っていないと、学校はスマホなどを持ってきては駄目だという態勢なので、そしたら親がいかにかそのことを子どもにしてやれるか、そういう意味では青少年の方だけではなく、もっと小さなときから情報モラル教育に取り組んで、子どもの安心・安全のところに組み入れていっていただけたらありがたいと思います。本当に新しい動きがどんどん草津市には出てきて、玉川中学校では生徒会独自でスマホのルールづくりをしてくれていますし、子どもたち自ら動いていってくれる。これには周りの支えと、後援をしてくださっている力があってこそなのですから、本当に課をまたいでというのが、さらなる教育委員会のステップアップのためのキーワードになるかなと思っています。それは幼児教育もそうですし、課をまたいでというキーワードで何ができるかなというふうな観点で考えていくのも一つだと思いました。

糸乗委員長

どうぞ。

駒井委員

私もいくつか今おっしゃっていただいたことと重なる部分があるのですけれども、一番期待することは、私は学校現場におりましたので、特にそれは思ってしまうのですが、現場の状況、学校現場の子どもや先生がたの状況をやはりしっかりとときめ細かに把握していただくことです。プラスのがんばっている部分もちろんそうですし、しんどい部分については、特によく見ていただけたらと思います。

そして、その学校の子どもたちの状況を、なぜそうなのか、そういう状況があらわれているのか分析していただいて、その上でどの学校にも共通してやることと、その学校に必要なことというふうなことで、きちっと見ていただいた

ら、先生が元気になると思います。先生がたが元気になる、そういう施策を展開していただけたらありがたいなということを思います。

その大きなことと、それからいくつか部分的なことですが、先ほど杉江先生もおっしゃいましたけれども、この報告書の中では就学前教育の姿がやはり見えてきません。草津市の行政の進む方向も新しい方向をとっておいでになりますが、やはり学校教育と幼児教育は切り離すことができませんし、そのあたりで今おっしゃっていただいた幼児教育の重要さというのがあると思います。市長部局でやっていただいている幼児教育と、こちらが学校教育課や教育委員会でやっている部分は、うまくつないでいただいているのだろうとは思いますが、やはりそこら辺をどちらもが一つになって、子どもが豊かに育つことを目指していただけたらなということを思いました。

それから、ネット社会の対応、情報モラル教育、その点についても杉江委員さんがおっしゃっていただいたのですが、これは本当に深刻な状況に来ているというふうに思います。学校でやはりスマホはさわりませんが、やっぱりタブレットとかパソコンとか学習に使うプラスの光の当たる部分の使いかたを学習しています。けれども、やはり家に帰ったらいろんな環境があるわけです。スマホもあれば、もちろんパソコンもあるでしょうし、そういう中で子どもたちがそういう機器に触れている時間というのが非常に多くなってきている。小学生でももう1時間とか何かこの間の内閣府の調査では出ていたようですし、それも平均であって、滋賀県では、草津市ではどういう状況なのかちょっと分かりませんが、そういう状況の中で家庭での約束を作らしようといっても、なかなか親がどういう約束を作っているかわからない。もちろん、情報提供はなさっていらっしゃると思うのですが、その辺の親がやはりそこについていけないということは、親だけではなくて先生もついていけないという状況はなきにしもあらずではないかということを思います。

ですから、やはりそのあたりについては、子どもたちにはネット社会でこれからさらに生きていくわけですから、そういった意味では影の部分があるということも理解させながら、では、どういうふうに対処していくかという具体的な方法まで学習するというのを小学生時代からきちっと進めていく必要があるのではないかなと思いますし、保護者のかたの研修会もなかなか出ていただけないかたもいると思うのですが、積極的に展開していただけたらなと思います。

そして、これからの社会というのは、やはり言われたことを素直にやると、言われるのを待っている、指示されるのを待っていることができるという時代ではないと思いますので、では、どういうふうを考えて判断して生きていくかというふうな力というのが非常に大事になってくると思います。そういう点で

思考力を高める宿題であるとか、それを添削していただいて、確実に実行していくそういう子どもたちの育成に力を入れてやっていただいているのはすごくいいことだなと思うのですが、やっぱり基本は学校の授業であると思います。やっぱり学校の授業が変わらないと、子どもたちの育つものも育たないというより、もったいない部分が出てくると思いますので、やはり子どもたちに考えることができる、そういう授業の展開でありますとか、日々の特別活動の中で子どもたちの自主的な活動の中で、さらにそういったことを応用しながら力を付けていくという場面をやはり大事にさせていただきながら、今後も進めていただいている施策というのを、続けていただけたらいいのかなというふうに思っています。

そんなことを思わせていただきました。

糸乗委員長

では、お2人の方から御意見いただいて、意見交換という形の方がいいのかなと思いました。キーワード的には先ほど言っていた「連携」というお話がやっぱりありましたので、それについて先ほどお話を聞いて、私たちにとっては新鮮な形でお聞きしましたので、学校教育と生涯教育とかの連携がここでなされているという形の話とかもあって、その部分が現状、どういう形でいくのかなというのも私としては感じました。

あと、幼児教育と学校教育の連携であるとかという話、キーワード的には連携という部分で少しお話を伺えたらありがたいなというふうには感じたのですが、けれども、御意見としてはかなりお伺いできたとは思いますが、もうちょっと具体的に言いますと、学校教育とか生涯教育とかの連携についてはこのまま、このままというのですか、可能性というか、そういう意味ではもっともっとやっていけるであるとか、そういう部分の感触というのでしょうかね、そういう部分が教育委員のかたがたからお伺いできればありがたいなというふうに感じましたが、いかがでしょうか。

谷川教育委員

ネットについてちょっと考えないといけないというのは、小さいときから泣いたときにタブレットを与えとか、あるいは親が乳母車を引きながら自分はネットをしているとか、そういうところでもう依存性ができてしまうと、これは大変大きな問題になると思うんですね。ですから、そのあたりは学校だけではなくて、小さいときからの親の指導をしていかないと、大変なことになるのではないかなというふうに思いますね。

多分、ちょっと記憶が薄れてきたのですが、脳のCB1細胞か何かそこへ全部、依存のシステムができてしまって、それができてしまうともういろんな依存症が出てきて、それが病院へ行かないと治らないし、行っても治らない可能

性があるので、そのあたりは学校と社会教育と小さいときからも含めてやっていかないと大きな問題になるのではないかなというふうに思います。

川那邊教育長 よろしいですか。

糸乗委員長 はい。

川那邊教育長 私は教育長をやらせてもらって今、2年目なのですが、今年から新教育長という新しい制度のもとでやらせていただいています。その中で皆さんにお伝えしたのが強みを活かすということなのですね。草津独自の歴史であったり文化であったり自然であったりと、そういうものプラス今まで築きあげていただいたその実績とか成果とか、そういったものが私は草津市の大きな強みだというふうに受け取っています。

いろんな新しい事業を起こすときにも、やはりこの強みを活かしたという観点は大事にしたいですし、課題を解決すること、あるいは草津の弱いところへの対応も強みを生かしながら取り入れていくと、対応していくということは、私は大変大事な観点だと思って、日頃から皆さんにもお伝えをしています。

そんな中で連携というのは草津の強みでもあるわけですね。地域協働合校で培われてきた学校と地域との連携あるいは地域と地域との連携、それからほかにも草津の強みとしては大学との連携でありますとか企業との連携でありますとか、そういったものも大変強みとして活用できますし、事実そういった取組で、それぞれ強みがさらにより強い特色となっているということもあると思います。

いろいろ御意見もいただいております、中には草津としての弱い部分もあったりしますが、こういった強みというものを活かしながら、いただいた御意見を着実に解決できるような仕事ができたらいいなというふうに思っています。

谷川教育委員 草津の強みって、昔から部落問題を初めとする人権教育をすごく一生懸命、取り組んできたというのがあって、それが草津の強みやと。

川那邊教育長 強みですね。

谷川教育委員 ほかの郡・市にはない取組がなされてきた部分ですね。11ページを見せてもらって、6中学校区での取組が実践されているということで、中身はちょっと僕は分からないので何とも申しあげられないですけども、今の流れとし

ては部落問題がどうも薄れてきているというか、人権教育という大きなくくりになってしまって、そこが草津は今どうなっているのか、ちょっと評価委員のかたの意見もなかったので、そのあたりをもう一度、再点検して、草津はここをやらないとまだまだ駄目だというのを、そのあたりは地域で連携をしながら、同和地区を含む校区と含まない校区があると思うのですね。その地域交流とか先生の交流とか子どもの交流とか、そういうものを踏まえてやっていくことがまだまだ必要ではないかなというふうに思いますね。それが草津の強みであって、それが薄れてしまうと、どうも草津の強みが少し弱まっていくのではないかなと、ちょっとそれを危惧しているところなんですけれどもね。

麻植教育委員

一つよろしいですか。

糸乗委員長

はい。

麻植教育委員

草津市の教育委員会委員は公募制です。これも本当にいろんなかたがたの御意見がいただける草津の教育委員会の強みかなと思っています。現に保護者枠というのは国で決められている枠ですが、あとはスポーツや保健のスペシャリストで、いろんな多岐にわたって見てくださる先生、幼児教育のスペシャリストで、育てる部分と現場も経験されてきた。私は文化の方で。そういう形で双方、いろんな方向から見ながら草津の教育を高めていくこの態勢を草津は本当にとれているんだなと思います。保護者枠の村山さんも本当にお子さんを通してだけではなくて、いろんなものにも関心を持っておられまして、英語にもたけてられますし、本当にすばしいかたが揃っておられるんだなというふうに思っています。

それで、あと事務局の方にすごく私がありがたいなと思っているのは、普通、教育委員会の教育委員というのは、学校訪問の際は、大抵企画をされてどこどここの学校に行くという形をとっていると思いますが、草津は年に何回という形ですけれども、自由に動かさせてくださったんですね。そして、私も自分が手を挙げた理由が子どもたちの不登校でしたから、駒井先生がおっしゃったみたいに、校長先生と仲良くなりたと思って全部回らせていただきました。仲良くなるためには、いいところも悪いところも分からなかったら仲良くなれないし、応援もできないしという人間関係を構築しながら、いろんな学校を回らせてもらいましたし、それは見方を変えればスタンドプレーにも映るのですが、それは教育委員会は止めないでいてくださいましたし、今も本当に先生がたもいろんなところに個人で動いてくださっていますし、今、学校関係をこうして回れて、幼稚園の方も回らせてもらったりもしているのですが、PTAとの

接点がないなどちょっと気付きましたので、次は事務局のかたに今度は保護者のかたがたとの接点を設けさせてもらいたいというのをお願いしています。

そうすることによって、現場の保護者のかたがたが不安に思っておられる内容、情報の部分にしてもそうですし、幼児教育の部分にしてもそうです。例えば、子ども会なんかは年長さんが入ることによって、そのまま小1プロブレムが解消できるのではないかなとか、現場の子ども会のかたがたとか、そういうふうにして保護者のかたがたとの接点を次は見つけていきたいなというふうになんかちょっと思っています。

以上です。

糸乗委員長

学校現場の状況を見ていただくというのは、いろんな視点で見ていただいて、委員のかたからも見ていただけるということにつながるのだろうとは思いますが、ありがとうございます。

杉江教育委員

いいですか。

糸乗委員長

はい、どうぞ。

杉江教育委員

強みが連携だというのは、もうまさにそうだなと思って聞かせてもらってありました。地域協働合校という取組が、本当に形を変えていく部分はあるかもしれないけど、それをベースにしながら広がっているし、先ほどの私も中学校区の人権教育の組織の中での交流会というのも、本当に他市にはないような形での交流会が各学校の中でありましたし、そういう部分では本当に乳幼児期から小・中・高に至るまでの連携、取組というのが歴史ある取組としてなされてきたのが草津ではないかなというふうに思います。それがこれからも継続して形を少し変えつつも実践していくべきではないかなというのがまず展望としては思っているところです。

先ほどスマホの問題で幼児が遊びのように、このごろはもう、ままごとのときにスマホを使うマネをして遊ぶという、それが社会を反映している姿ではあると思うのですが、やっぱり子育て支援についての支援課は市長部局になるのですが、子育て支援の側面を教育委員会としても、小・中につながっていく部分としてやっぱり大事なんだということを、家庭教育学級とかがありますので、幼稚園にももっと声をかけていただいて積みあげていく、連携を持ちながらしていくという部分も大事な取組として必要なのかなということだと思います。

ちょっと家庭教育学級の方の取組が少ない、幼稚園でも少ないというような文言がありましたので、ぜひ声をかけていただいて、そういうものも利用しな

がら子育て支援の大事さを子ども家庭課と連携しながらやっていただけるとい  
いかなと思いました。

村山教育委員

今、連携というキーワードで、保護者との接点という話も出ましたけれども、  
保護者のかたがたもやっぱり関心とかやる気を持っていらっしゃるかたがすご  
く多いと思うんですけれども、なかなかそれがつながるところが皆さんが望ん  
でいるほど持てなかった部分もあるかもしれない、例えば今ここで見つけら  
れないのですけれども、「コンパス」の話がこの中に出ていて、今、何号か出  
していただいてすごくがんばっていただいているのですけれども、例えば今ど  
ちらかというと一方向で情報発信するというものを、せっかく全戸配布という  
ことですし、それを通じてもうちょっと身近に保護者なり地域のかたがたから  
直接何かしらやりとりなり疑問を投げかけてもらうなりできないかなという話  
が、この間私たちの中で出た部分もありますし、それから学校の先生がたから  
聞いていても、例えばICTのタブレットなんかをどういうふうに学校ではや  
っているのか、どんなことをやっているのかというのを保護者のかた御自身が  
教えてほしいというか、講習会なのかな、ちょっと実際にこんなことをやっ  
ているというのを保護者のかたが集まって見てくださったり、そういう会を開い  
てくださったりというのもお伺いしましたし、やっぱり皆さんが知ることでよ  
り理解も深まってよりよいものができていくという部分は必ずあると思うので、  
そういう部分をもっともっと大事にしてほしいなというふうに思います。

それから、教育長もおっしゃいましたけれども、大学とか企業とかとの連携  
というのは、それはこの4年間で見ていてもすごく頼もしいというか、心強い  
など感じる部分で、もしかして市内で場所によってどうしても偏ってしまう部  
分はあるかもしれないので、できるだけそこがもっと広がるといいなというふ  
うに思いますし、今回読ませてもらった中でも推進会みたいなのを、体育に関  
してもそれから英語に関しても、新しく始めるというのはありましたね。それ  
も例えば英語に関しても草津のALT、JTEの先生がた、やっぱりほかと比  
べてみてもすごく多いということを前から聞いていますし、周りの市から見  
てもそれはすごく草津の強みであり、うらやましいと実際に言われたこともあ  
りましたし、そういう部分を本当にこれから活かして、保護者のかたもやはり  
不安を持っておられることがすごく多いので、今回そうやって一つの形として  
これから進めていくということもできてきているように思うので、ぜひそこを  
本当に力を入れてやってほしいなというふうに思っています。

川那邊委員長

教育は「不易」と「流行」ということをよく聞きます。草津が「不易」の部  
分に置いているのはもちろん基礎的なことですが、もう少し掘りさげる

と「不易」の部分は困っている子どもへのやっぱり手厚い支援なんですね。先ほど下村委員さんから、草津の教育は手厚いとおっしゃっていただいて大変ありがとうございましたのですが、実はそこは困っている子をどうサポートするかということです。

ですから、その辺の体制はまた来年度予算においても、きちっと今、構想段階ですけれども考えていきたいと思っていますし、それからもう一つ「流行」の部分はやはりこれからの社会の中で子どもたちに必要な力をどう付けていくかということが、やはり義務教育段階においても非常に大事な力とっております。そこでそれについてもビジョンも含めて来年度予算の中でできればな、少しでも目に見える形であらわせたらなというふうに思っています。

何年か後に子どもたちが草津で学んで良かったなと、何人かがそういうふう言ってくれれば大変うれしいかなと、そんな思いを持ちながら、ある意味、楽しみながら仕事をさせていただいています。

麻植教育委員

先生、すみません。一つだけ最後に。

ビジョンという言葉は今おっしゃってくださったので、ビジョンという観点で動いてない部分というのが一つ、私は文化という点で気になるのですが、草津も本当にいろんなイベント的な、文化的なものもいろいろ点在してあるのですけれども、それを草津の一つとして考えて、一つの大きなビジョンでこの催しはこういうふうにと、大きなビジョンが見えてない。単発でそれぞれ、例えば俳句もあります、文化祭もあります、アート・フェスタもあります、音楽祭もある。

でも、これをどう結集しながら草津の文化をどういうふうに通っていくんだという、例えば文化基本方針のようなもの、これを作ってほしいというのではなくて滋賀県は持っています。ですし、ざっくりしたものでも構わないのですけれども、どういうふうに通って、せっかくアミカホール、クレアホールと市内に二つもホールができていますから、そういうもののビジョン立てみたいなものがやっぱり欲しいなというふうに思っています。

今回もアート・フェスタと「街あかり」も同時開催なのですが、そしてこれが同時開催することで草津がどういうふうなことを目指しているとか、そういう視点というのが余り市民の目線では見えてこないのかなと思ったりするので、本当に草津の文化、芸術祭というのでも何でもいい、どんなのでもいいですけれども、枝葉のように分かれるような文化に育っていったらいいなというふうに感じます。

下村委員

いいですか。

糸乗委員長

はい、どうぞ。

下村委員

今、連携ということで、皆さんご存知ですが、東北の大津波のときに、防災の大学の先生が幼稚園・小学校・中学校に指導に行っておられたのですよね。そこは津波が来たらこうするんだぞということで、一斉に迷わずだあつと逃げていたから犠牲者がほとんど出なかったんですよね。やっぱりそういう連携は非常に大事やと思うので。

ところが、そういうことをやってないところは、さあ、津波がといたら迷ってしまって、運動場に逃げたりして避難したりして、そこでそんなのしてたらもう全然間に合わないというようなことになりました。連携とそれから強み、やっぱり草津ができあがっているものがありますよ。

例えば、道徳性といいますかね、この前、玉川幼稚園でしたか、発表を聞いたんですよ。いいなと思いましたよ。文部省の指定を受けているの。文科省とか、県教育委員会の指定を受けたりしている学校があるやないですか。そんなのでつなげていく。つなげてきたものが地域へ流れていく。家庭の親が、子どもがこんな姿で親としてこれは恥ずかしいわというような地域協働合校を、やっぱり大学の先生に来てもらって、そして学校がいい教育をしていくことによって地域がついていきますよ。応援しますよ。地域協働合校は公民館に任していたらあかん。

やっぱり学校が主導してしっかりしてもらって、しかも大学の先生が行って、スマホについてもこれからどうするのか、ひとつやってもらって、しっかりとしたビジョンを持ってもらって幼稚園からしてもらわんと。その前に親の教育からしていかないとね。そのあたりをしっかりとやってもらったらいいんじゃないかというふうに思いました。

糸乗委員長

ありがとうございます。

谷川教育委員

もう一つしゃべっていいですか。

糸乗委員長

はい、どうぞ。

谷川教育委員

どうもすみません。連携という意味で。

13ページのアレルギー疾患の子どもって、これからますます増えていくと思うんですよね。これは事務局に聞くことになるのかもわからないですけども、実数がどれぐらい、アレルギー疾患で対応した回数がどれぐらいあるのと

かね。

例えば、今だと済生会にドクターヘリが常駐しているので、それを呼ぶ方が絶対早いと思うので、そのドクターヘリとの連携をどうするか、そういうのを含めてやっていくのがいいのかなと。教員の研修も大事ですけども、もし起こったときに命、一刻も時間が短い方が助かるので、そのあたりの連携がどうなっているのかというのをまた教えてもらえたら。今まででどれぐらいあったのかというのを実数も分かれば教えてもらいたいと思います。

糸乗委員長

ありがとうございました。

村山教育委員

すみません、もう一ついいですか。

糸乗委員長

はい、どうぞ。

村山教育委員

先ほど駒井先生も子どもが考えるような教育、例えば今やったらエンジョイシンキングのプリントなどもありますけれども、今ICTタブレットをいろいろ取り入れていっていますけれども、私は今は第1段階だというふうに思っているのですね。

使いかたを習得するのはもちろんですけども、最終的な目標としてはぜひその次を見据えて担当課の先生がた、皆さん、もちろんお考えだとは思いますが、あくまでその次が目標であり、それを使っていかに自分の考えを表現できるか、それから課題を解決できるかということこそを本当に目指してやっていただきたいなというふうにいつも思っています。

課題を解決する力はもちろん大事ですけども、最終的にはやっぱり課題を自分で見つけて、それを解決していく力ということを目指していただきたいなというふうに思います。

先ほどスマホの話なんかにもありましたけれども、統計でもありますね。全く完全に禁止される子どもさんより、1時間でやめる子どもさんが一番学力が高いというのが出ていますよね。時間が延びれば延びるほどやっぱり反比例、学力が落ちていくよとか、いかにそれを自分のものにして使っていか、自分を高める手段として使っていけるかという部分を目指していただきたいなというふうに。

子どもたちのコミュニケーションもどんどん変わってきていますよね。いろんな意味で変わってきていますけれども、そこをぜひ乗り越えていってほしいなというふうに、教育委員会に寄せてもらっている者としても、やっぱり一人の親としてもすごくそこは強く感じます。いろんな意味でICTタブレットだ

けではなく、例えばグローバル社会に対応できる子どもたち、英語に関しても力を入れていってくださっているとは思いますが、英語が目的ではなくて、それによって広い視野を身に付けたり、そういう部分で本当にその次の部分を目指していただきたいなというのを常に思っています。

川那邊委員長

駒井委員がやっぱり授業やというふうにおっしゃっていただいた。これはもう私もそのとおりだと思って、この御意見を大変ありがたく受けさせていただいたのですが、授業研究もありましたけれども、私は長年、草津にいて、草津の授業の強みは授業の中で一人ひとりの思いや願いや意見をしっかり受けとめながら、それをみんなで関わり交流し合いながら一つのものを求めていくと。これが私の思っている草津の授業であったと思うのですね。そして、それが草津の授業の強みであったし、その授業を受けた校内研究会がかなり盛んに行われていたように思います。時代が流れる中でそういった草津の授業の強みを大事にしながら、今、求められる授業を一層充実させていくと。そんな形で取り組みたいということで、今日も実は担当とは雑談の中でもいろいろ話していたのですけれども、そんな思いを持っています。

ありがとうございます。

麻植教育委員

先生、すみません。

糸乗委員長

はい。

麻植教育委員

草津の子どもたちはすごくすばらしいなと思っていた中で、この夏の教育研究所の講演会に寄らせてもらったときに、すごくショックな受け止めかたをした出来事があって、職場体験で子どもたちのあいさつが全くできないというお話だったのですね。もう一回そこを先生がたも込みで、なぜそういう現状なのかというのを振り返りたいなというのを思いました。あいさつが一番根幹だと思うので。

しっかり朝、あいさつをずっと言い続けているけれども、職場体験ではできないですと言い切られたので。それはちょっとびっくりしましたので。逆にそういう現状があるということをやっぱり踏まえながら、いろんな施策を真剣に捉えていかないと駄目なのかなと思いました。

糸乗委員長

ありがとうございます。

話は尽きないということですが、一応委員のかたがたからのいろいろな情報も引き出せた部分もあったかなとは思っていますので、私たちの意見も反映

させていただいて、記録に残るとというのが非常に大事だと思いますので、本当にいろんなここで発言していただいた内容をまた次へ活かしていただいたり、私たちの意見も少しでも活かさせていただければありがたいなと思います。

時間の方もございまして、川那邊教育長様を初め教育委員会の皆様、また外部評価委員の皆様、本当にありがとうございました。

今後の草津市の教育に少しでも寄与できる場所があったらありがたいなと思っております。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

それでは、懇談会の方はこれで終了させていただきたいと思います。事務局の方に進行をお願いいたします。よろしくお願いいたします。

教育総務課長

外部評価委員の皆様、また教育長、教育委員の皆様、本日はまことにありがとうございました。また、糸乗委員長には今日の委員会の進行も含めて、大変お世話になりました。まことにありがとうございました。

今後でございますが、本日の懇談会をまとめさせていただこうと。あと、また本日、冒頭、駒井委員にいただいた修正などをさせていただいて、報告書をまとめさせていただいた後に、この11月の定例教育委員会の方でお諮りさせていただいた後、議決をいただき、その後、市の議会の方に報告させていただきたいと思います。また、併せて市のホームページの方にも公表してまいりたいというふうに考えております。

これで、教育委員会事務外部評価委員会を全て終了させていただきました。大変、お世話になりました。まことにありがとうございました。

開会 午後0時8分